

景観学習 黒岩小学校(1回目)

【日時】平成21年11月12日(金)9:25~12:15

【会場】黒岩小学校およびその周辺

参加者：黒岩小学校5年生6名 6年生6名 計12名

1. はじめに～校長先生のお話

今日の総合的学習は景観教育について勉強します。景観教育とは、地域の良さを知る、地域の風景を大切に作る気持ちを育てるという教育です。今日は青森県弘前市から北原先生を講師にお招きしました。今日と12月の2回に分けて、景観教育をします。しっかり勉強しましょう。



2. 北原先生のお話(9:25~10:00)

(1) はじめに

おはようございます。今、校長先生に紹介していただきましたが、青森県の弘前という所から来ました。弘前という場所のことわかる人いますか?聞いたことある?どんな町だっていう、少しイメージありますか?何かで有名な町、弘前で有名なものわかりますか?弘前ですごく有名なものがあるんだよ。

(児童)「りんご!」

そうだ。あとは?結構北上に近いよ。北上でも有名なもの。

(児童)「南部せんべい!」

南部せんべいはないなあ。北上はね、北上で有名なものが弘前でも有名で、あとは秋田県の角館という所と、この3つが日本三大なんとなかって言われているらしいんだけど。植物です。

(児童)「スギ?」

スギはないなあ。北上で有名なものって?

(児童)「桜!」

そうそう。桜。

今日は、景観学習ということで、最初、この2時間目は先生がお話をします。3時間目と4時間目は、今日はいろいろな所から人が来ています。盛岡や、私は弘前から来ましたし、北上の人もいます。様々な方々と一緒に、まちをみんなと一緒に歩いてもらって、写真を撮ってもらう。ですから、その写真を撮ったりして景観をやるということで、まずそのための勉強を今から始めます。

今日は『つばさのお父さんの「景観教室」』というお話をします。僕にはつばさという息子がいて、一緒に景観を子どもの頃見たんですけども、もう、そのつばさくんも今はビールを飲める歳になってしまいました。ですから、こういうのをいつまでも使っても仕方ないんですが、一応『景観教室 黒岩小学校編』です。



(2) 景観とは

最初は、景観ということについてです。景観という風な言葉は、みんなはもちろん聞いたことあると思いますが、景観で何ですかって言われたらパッと答えられますか。

(児童)「見た景色。」

他にはどうですか?

景観というのは、今言ってもらった通り、景観の『景』は景色です。あるいは風景と言います。景色とか風景とって、例えばここからこの窓をパッと

開けたときに、向こう側に見える景色というときに、
景観の『景』は景観の景色ですね。で、『観』は。

(児童)「観察の『観』！」

そう。『観』はみることなんだよね。先生、なんで今日この話をするかという、みるだったら、あんな面倒くさい漢字を使わなくて、漢字のテストとしてはあの『観』という字はいいかもしれないけど、あの右側の『見』っていう字入ってますよね。『見』の左側にあの面倒くさい字ありますよね。あんなの使わなくても、景観、景色みるだけだったら、『景』と『見』という漢字だけでいいじゃない。

あっちの『観』って、難しい方の『観』って、どんな意味なのかなという話から今日はします。

1. 「景観(けいかん)」ってなんだろう？

景観(けいかん)

景: 景色(けしき)、風景(ふうけい)

観: みること

★でも、どうして、「見る」という漢字を使わないのでしょうか。

そうじゃなかったら、景色みるだけだったら景観の『景』はあの『景』だし、みるっていうのは簡単な方のみんながよく知っている、見学するとか発見するとかの『見』でいいのに、どうしてこの左側がついているのかという話です。

でもこれは、今これが大学生とか大人の人授業だったら、ちょっと違うことを使いますが、みんなで考えるときには『みる』っていうのをもう少しわかりやすく考えていきます。

先生はこう考えます。『観る』は見て、ちょっと考えてみる。あるいは、見て、ふしぎな景色だなあとと思う。とっても好きだなあとと思う。反対に、こんな景色見たくないなあとと思う。もっとこういうのもっともっと見てみたいなあとと思う。こういうのがあっちの上に書いている『観る』だと思っんです。

これを見ると、この『観る』ってどんな意味だと思いますか。今僕は、『見て、ちょっと考えてみる』『見て、ふしぎだなあとと思う』『見て、好きだなあとと思う』『見て、ちょっといやだなあとと思う』『見て、もっと見たくなる』この5つに共通していることって、5つで似ていることって何だと思いますか。

(児童)「見て」

そう、最初『見て』という言葉だけで全部一緒に始まっています。

★観る(みる)

○見て、ちょっと考えてみる

○見て、ふしぎだなあとと思う

○見て、好きだなあとと思う

○見て、ちょっといやだなあとと思う

○見て、もっと見たくなる

→それが「観る」

そういえば「観察」ということばもあったわ

景色をみるだけだったら、目しか使いません。目には神経があります。この中に入っている景色が頭にいきます。僕らには「あ、あそこに北上川が見えた」とか「山が見えた」という情報だけが目から入ってきます。それは『見て』で終わりです。で、問題のあの『観る』というのは、そのあとのあの『、』の後ろに書いてある、たまたま先生は5つ書いたけど、もっとあるかもしれません。

『見て、悲しくなってしまう』『見て、怒りたくなってしまう』『見て、急に走りたくなってしまう』『見て、涙が出てくる』『見て』の後ろのあの後ろに出てくるものが、いろいろ人によって違います。

もっと言うとね、同じ景色を見ても、同じ山の景色を見ても、見て悲しくなる人と、見てすごくうれしくなる人がいると思う。

例えば、先生のさっき言った息子のつばさっていうのは、弘前には岩木山という山があって、小さい時からその岩木山を毎日見ていました。今は大学で仙台にいます。仙台から帰ってくる時にバスに乗って、高速道路にきて、秋田県から青森県にあがってきて、遠くの方に岩木山が見えるとなんとなく涙が出てくると言っていました。

それは何かと言うと「あ、帰ってきたな。久しぶりに帰ってきたな」。でも、旅行している人たちが、例えば東京の人が、旅行で観光バスに乗って、高速道路があがってきて、そしてトンネルをパッと抜けた瞬間に向こう側に岩木山が見えたって、別に涙は出ません。

つまり景観の『観』というのは、人がいろいろこれまで見てきたもの、感じてきたもの、やってきた

こと、そういうのがあった人が同じ風景を見ると、ある人は悲しくなるし、ある人は誰かの顔が思い浮かぶし、ある人はきっと懐かしい気持ちになるし。結局この『観』というのは、目で終わらずに、目からきつと頭の中通って、心とか思い出に入ってくるんです。だから景観っておもしろいんです。

今日はみんなに写真を撮ってきてもらおうと思いましたが。「あ、あそこで写真撮ってきました」。撮ってきた写真を見たいんじゃないです。その写真を撮ったときに、どう思って撮ったのかということが大事なんです。じゃなかったら、カメラ1台でみんな歩いて、「はいあそこ、はいあそこ、はいあそこ」と撮ってきて、地図に貼ればいいです。それは地域学習の場所だけです。みんなに考えてもらいたいのは、その写真を撮りたいと思った気持ち。

同じ風景を見て、もしかしたら、みんなこのなかにいる10何人、同じ場所を見ても、感じ方が違うかもしれません。

教科書で習うことというのは、 $3 \times 3 = 9$ です。答えはひとつです。漢字の書きとりの時も、書く順番というのは決まっています。けどこの『観る』というのは、正解があるわけじゃなくて、同じものを見て悲しくなった人も正しいし、笑い始めた人も正しいし。あの人どうしてこれを見て笑っているんだろうと、いいんです。

その人が見ている、だからその見ている気持ちを大切にしていって、そして景観というのは、いやだなあと思ったらなんとかしなきゃと思えばいいし、好きだなあと思ったらもっともっとそれを好きになるようにすればいいし。

景観というのは、ただ景色を見る、さっき言ってくれた、よりもっと上で、それを見てどうかという後ろ側の、今日はたまたま先生5つ書いたけど、みんなこの景観学習の中で、この後ろのもっと何かあるかもしれない。

それを自分たちで考えてみてください。『見て、黒岩がもっと好きになる』というのがあります。『見て、困っちゃったなあ』というのがあります。『見て、おじいちゃんとお話をしたくなる』という気持ちもあります。そういう気持ちを大切にしていくのが景観です。

(3) イギリスにおける景観学習

景観の勉強が一番進んでいるのはイギリスという

国です。先生、10年ぐらい前に2回ほど、イギリスの小学校の景観を見てきました。小学校5年生と6年生がやっています。ちょうどみんなと一緒に。その時に「あ、いいな」と思ったのがこれです。

『いいもの・わるいもの・気になるもの』。地域の中をみんなで見学してくる。今日みたいに。そして、こういうシートを作るんです。英語だけど、小学校英語習わないけれども、だけでもせっかくなんで、向こうの小学校で使っているシートそのままコピーしてみんなに見せます。



まちを歩いてきて、いいなあと思うものには左側のここにこマーク。見てやだなあと思ったものは真ん中のへの字のマーク。怒っている顔。それが上に書いている英語が『good』『bad』と書いてあります。それに『いいもの』『わるいもの』とつけました。最後の右側が、怒っても笑ってもない。けども口は平行になっている、真っ直ぐになっている。

日本だとたぶんこれ『いい』『わるい』『ふつう』と言うんですけれども、『ふつう』ではありません。

上に書いている英語です。あの英語は『ugly』という英語なんです。uglyという英語はあんまりいい意味ではありません。辞書で調べると何て書いているかと言うと、醜い。

みにくいアヒルの子という童話がありますけれども、醜い人、無様。でも悪くはないんです。そこが大事なんです。悪いというのはもう悪いから、それを取り除かなければいけません。ここから取らないといけない。

『気になる』と先生が書いた醜い『ugly』というのは、何とかしたらもっと良くなる人もいます。みにくいアヒルの子というのは、みんなとかたちが違うのでみんなに馬鹿にされていました。アヒルの中でひとりだけ浮いていました。「醜いやつだ」って言

われていました。でもみにくいアヒルの子は白鳥になったんですね。後で白鳥になります。

この『ugly』というやつは、今はみんなと違って変に見えるかもしれないけど、ちゃんと何とかすれば白鳥になるかもしれないよという意味で平行にしているだけであって、真ん中ではありません。だから『ugly』ってあんまりいい意味じゃないのに、小学校の授業で使っています。

下に書いてある英語は、何とかしたいという英語です。一番左側に書いてある英語は、『残しておきたい』。真ん中の英語は『取り除きたい』。最後の英語は『何とかしたい』です。何とかしたいと思う。だから景観なんです。

見て、「あ、何とかしなきゃ」、僕は小学校では、『いいもの』と『わるいもの』と『気になるもの』にしています。何か気になってしまう。好きでもない。特別好きじゃない。嫌いじゃない。でも何か気になってしまうが何とかしたい。こういう風なことを小学校で勉強しているんです。

そうするとね、みなさんはこの黒岩を歩いていて、今日、「あ、これやっぱりいいやあ」と思うものもある。それから「ちょっとなあ」と思うものもある。もうひとつ、「そんなに悪くもないんだけども、何だかなあ」と思うものが、もしかしたらあるかもしれない。そんなに好きではないんだけども、なんとなく気になる、そんなものも探せたらきっとおもしろいと思います。

イギリスの子どもたちは、この一番右の『何とかなる』というこの右側のカードを選んでくる人が一番多いです。写真撮ってきて。「自分たちがもししたら何かできるかもしれない」ということです。

(4) 弘前の小学校での景観学習



これがさっき言った岩木山です。今日みたいな勉強を弘前小学校の5年生にやってもらいました。一番多かった好きな景観は、岩木山です。

今日は持ってきませんでしたが、岩木山の写真というのが、120人に撮ってもらったら120人中100人までがみんな撮っていました。それぐらい弘前の子どもたちは岩木山が大好きです。

変な話ですけど、うちのつばさくんが3つの時、飛行機で、青森から大阪に行く飛行機に乗って、ちょうど途中でパイロットが「今左側に、窓をご覧ください。富士山が見えます。」と言ったんですね。みんなパッと見ました。その時つばさくんは窓側にいて大きな声で「お父さん、岩木山があそこにもある」と言ったんです。大きい山は全部、岩木山だとうちの子は思っています。

それぐらい、そういう景色というのはすごく意味があります。だから弘前の子どもたちはこれ大好きです。みんなの写真全部違う。この子は雪がのって前川の川がちょっと光っているものを撮りたかったそうです。晴れた日じゃなきゃだめだと言って、来週の月曜日までに写真撮ってきてねって、その人たちに写ルンですというカメラを渡したんです。渡して一週間一日も晴れなかったんで、その子は宿題を持ってきませんでした。

先生から僕に電話がきて「うちの一人の男の子が宿題持って来ないんです」と言ったんで、「どうして」と言ったら、「晴れてないから」と言ったんで「じゃあいいよ。晴れるまで待とう」と言ったら、3日遅れてきたやつです。その子晴れてないと嫌なんです。

そういう写真もあるし、もうひとつはちょっと汚い写真で持ってきませんでしたが、トイレの窓から見る岩木山というのがありました。汚い写真です。ちょっとみんなに今日見せられないんで持ってきません。なぜかというとな、毎日朝起きたら一番、最初に見る景色だって言うんです。

考えてみればそうです。小学校行く前にお母さんから「早くうんちしなさい」ってうんちしに行く。その時にパッと開けて窓から見える。そしてその家は岩木山を眺めたいということで、そっちの方向に窓開けるトイレになっています。お父さんの気持ちで作ったんです。だから岩木山を見ながら座っているから、岩木山を毎日見てうんちしているんです。だから落ち着いてうんちが出るんです。だからそういう意味で言うと、曇っている日はうんちが出ないかもしれませんが、そういう写真もあったんで、

みんな違います。

有名なものでなくてもいい。今日歩くときだって、すごく有名なお寺だとか、すごく有名な松の木があるとか、すごく有名な場所だからというふうにして、そういう観光客の為の地図を作るわけじゃありません。



みんながこの地域で「あ、〇〇ちゃん家の玄関、かわいいよね」「あそこね、おばあちゃんが一生懸命花育てているんだ」。これも〇〇ちゃん家の玄関です。でも〇〇ちゃん家の玄関、本当は、寒いからといって玄関の前にこうやってドアつけて、冬なんか風が入ってこないようにしてドアが2枚ぐらい入っているんですけど、でもきれいにしたいといって、寒くない時、夏とか秋とかはこうやって花を飾って気持ちのいい玄関になっています。こういうのも好きな景観です。

嫌いな景観で出てきたのは、これは公園のトイレでした。公園のトイレって大事なものなんですけど、こんなに汚いと何かしたくなくなる。



これは、つぶれてしまったお店でした。お店がつぶれたままでずっと置いてあると、怖い。誘拐犯がいるみたいな感じ。これは嫌な景観です。



これは気になる景観です。先生、uglyとか醜いとか言えなかったんで、小学校の子どもたちに「気になる景観を撮っておいで」と言ったら、みんな結構撮ってきました。これは弘前にあるデパートです。デパートの上にあるポールなんですけど、とっても有名な建築家が造ったんですけど、変な形で、みんなまちの人たちはあまり好きではありません。できたときに弘前に合わないと言っている人もいました。

これは盛岡にも同じデパートがあります。中三デパートといいます。弘前にある中三デパートです。

これを撮った子どもがつけたこの写真に対してのタイトルは、『カップラーメン』でした。言われてみれば何となくこういうのが乗っかっている感じがします。有名な建築家が造っても、カップラーメンはカップラーメンです。

先生が一番大好きな1枚、120人が24枚ずつ撮ってきましたから3000枚あるんです。

3000枚の中から選んだグランプリ1枚がこれです。



これは、先生が最初、「今日は景観の話をしますよ」と言ったときに、みんなに言われたんで「おっ。」と思いました。

このタイトルは『気になるけいかん（警官）』でした。「だって先生けいかん撮ってこいって言ったもん」と言われたんですけど。確かに『気になるけいかん』です。この『気になるけいかん（警官）』はやっぱり気持ち悪いです。

夜はね、白い所光ったりするんです。これね、先生たち大人、校長先生みんな含めてね、大人はこういうのが道に立っていると、あそこは交通事故が起きるから危ないから、車を一旦停止しなきゃいけないとか、ブレーキかけなきゃいけない、スピード出しちゃいけないという風に、僕らはこれを記号として見ます。

でもたまに見た人は、これは気持ち悪いわけです。どうしてあんなリアルな顔にしなきゃいけないのか。誰かモデルがいるんだろうか。

あれが例えばアンパンマンとかキティちゃんだったらわかりますよ。キティちゃんもおかしいかもしれない。でも本当に誰かどこかにいそう、そういう人がいるとびっくりします。

その証拠に、実は弘前大学はアメリカの大学と姉妹校と言って、向こうの先生が一週間ぐらい遊びに来たりするんですけど、今から6年ぐらい前に、アメリカのテネシーという所から来た女の先生が、来たときに、弘前を案内しようと思って何人かで車に乗っているときに、この場所に来てしまいました。

そしたら、そのアメリカの先生びっくりしていました。「日本はなぜこんなことをするんだ」「ここちょっと危ないんで、子どもたちが学校帰りに危なくないようにあそこに立っているとしますよ」と僕が言ったら、「信じられない。アメリカではもしそんな危ない所があるんだったら、地域のお父さんやおじいちゃんたちおばあちゃんたちが立っている。交通整理している。こんな写真とか気持ち悪いものを見た瞬間に、思わずアメリカ人はピストルを撃つ」なんていう話をしたんですけど、それぐらい怖いという話をしていました。

夜こんなのを見たら、絶対ピストルを撃ちたくなると言っていました。それぐらいびっくりする。

しかし、僕たちは、毎日これ見ているとだんだん慣れちゃうんです。

（５）景観を勉強することの大切さ

みんなはまだね、10年、11年、12年しか生きてないから、だから気になるわけ。校長先生や僕たちは、40年、50年、60年生きてくると、こういうのを見ていると慣れちゃうの。慣れてしまうと、昔はおかしいなと思っていたんだけど、だんだん見慣れてくるとこんなもんかなと思います。

なぜ今日皆さんに景観教室で来たかと言うと、まだみんなはこんなもんかなと思う歳じゃないからです。だから、見て「先生、あれおかしいよ」とか「あれすごいよ」という話があって、それは、今日僕がここに来たのは、みんながそれを、「こんなのすごいよ」とか「こんな変だと思うよ」というのを聞きたいからです。

一番最初に言いました。教科書と違って、教えることが教科書に書いてあるわけじゃありません。みんなが見つけてきたものの全部が、全部勉強です。

それを大人も聞いて勉強します。みんなが見つけてきた写真とかその時言った言葉を聞いて、先生もそう、校長先生もみんな、きっとそれを聞いて「へえ、そうか」と思って、先生方も勉強します。あともうひとつ、他の人とも違うかもしれないから、同じ所いつも歩いているのに、他の人が撮ってきた写真を見て「へえ、この子はこんな風に見ていたんだ」と思うだけでも楽しくなります。

そういう意味で言うと、景観というのは何が一番正しいと答えが出るわけではなくて、これを子どもが「これ、変だ」と言ってくれた時に、大人が考えます。「ちょっとこういうのはやめようか」と思うわけです。だからとても大事なんです。

最近こういうのがあります。透明人間の景観です。電信柱に立っているんです。こうやって見ると「そうか、これはおまわりさんの代わりに立っているんだな」と思いましたけど、夜見るとこれも変です。夜は白い所だけ光っていますから、そうすると電信柱のこの白い所が光っているので、これも慣れてしまいました。「気をつけなさい」ということだと思っただけど、やっぱり変です。

（６）弘前市の景観づくり

どんな景観を見つけてくれるか、北上市役所の人たちも今日来たみんなも楽しみで来ています。先生がつばさくんと一緒に昔歩いた時に、先生はこんなのがすごく気になったんだという写真を今日は少しお話ししましょう。

★つばさ君の弘前たんけん
(その1 ひまわり)



14

これはこの場所にあるでしょうか、あるいは北上市内にあるでしょうか。壁に絵を描く人です。あのひまわりすごいですよ。本物みたいに上手でしょ。

先生はつばさくんをスケッチして切り貼りしてここに貼りました。

向こうのひまわりがすごいのが、後ろにいけばいくほど小さく描いています。遠くに見えるし、薄く描いてあるから本当にひまわり畑みたいに見えます。ここは何かと言うと、5、6、7と描いてありますね。この場所何だと思います。

(児童)「駐車場」

そう。駐車場だったら、殺風景だね。5番、6番、7番に車置いて後ろにネズミ色の壁があるだけです。でもその時に、あれにひまわりの絵を描いてくれたおかげで、ここはとてもおもしろい駐車場になりました。

誰かと思って聞いてみたら、後ろにちょっと建物見えていますが、この塀の向こう側は、弘前第三中学校という中学校だって。中学校の美術部の生徒が卒業前にこの前の駐車場の人に「描いてもいいですか」と言って「いいよ」と言って描かせたのがこれです。こういう風に景観というのは、見るだけじゃなくて、自分たちももしかしたら作れます。

★つばさ君の弘前たんけん
(その2 へんしん！)



15

これは、弘前のお寺がいっぱいあるまちにある醬

油屋さんなんですけど、その醤油屋さんがクーラーを買ったんです。

クーラーというのは、中に機械があると同時に、中の温かい空気を外に吐き出すための機械、それが2個セットでくるんです。その2個セットがちょうど真ん中にあります。

せっかくお寺とかいっぱいあって白い壁で、こげ茶色の柱とか板で雰囲気がいいのに、そういう機械出したらだめだろうとって、このおじさんは大工さんと相談して、あれを上から被せました。

だから機械が、新しい機械が邪魔にならないようにうまくセットしました。でも考えてみたら、左側のタバコの自動販売機とか、ああいうのも全部そうやればいいのにとします。

でも、ちょっとでもいいから工夫するというのも景観です。

これはなかなかすごい話で、弘前であんまり看板とか出すのやめましようねというルールを決めました。ところがこのお店は『ゲーム カラオケ』と書いちゃったんです。みんなでやめようねと言ったのにね。ここに『ゲーム カラオケ』とあるのは実はルール違反だったんです。みんな、やめていたんです。でも書いてあったから先生怒って、気球に息子乗せて、モップとバケツ持って消しに行くぞと、雑誌に書いて弘前に出してしまいました。

★つばさ君の弘前たんけん
(その3 知ってるもん)



16

やってみるもので、その半年後には消してくれました。

次、『どこでもドア』。これは弘前で有名な話です。弘前のあるところを走っていると、道路の上にごうやって門がある。変です。道路の上に門があるのは

おかしいんですけど、この門を越えた向こう側には寺がいっぱいあるんです。



寺があるから、こっちは平成で向こうは江戸時代みたいな感じで、門のこっちとこっちで時間が違うというので『どこでもドア』と、入ると向こうを水戸黄門が歩いているかもしれないと文章に書いたんですけど、途中でちょっと待てよと、水戸黄門は歩いてないな。だってあそこに電信柱があんなにある。

水戸黄門がもしここで映画を撮りたいと、テレビのドラマのロケに来たいと言っても、あの電信柱があったんでは、あとの雰囲気は江戸時代っぽくても無理です。残念だなあという風にまた雑誌に書きました。

さあどうなったか。消えました。じゃあみなさんに聞きましょう。



電信柱を消す方法ってどういう風にやればいいのかと思いますか。

(児童)「抜く」

抜くんだけど、電線も見えなくなったよね。やる方法はいっぱいあります。例えば盛岡の市内にもあると思います。北上市内にもあります。電線がない

所が。一番いい方法は、お金かかるけど、空中を走っている電線を地面の下に通します。地下に埋めまです。そうすると、下にずっとつながっていくことによって、電信柱も電線もいりません。

ただ残念ながら、ちょっと下に機械が、何メートルかに1回地面に出るんですけど。普通は電線こうするときにはそうやって下に通すんですけど、お金がかかるんです。

じゃああきらめるかというそうじゃない。景観というのは工夫をすれば、がんばれるんです。そこでみなさんに質問です。下には埋めていません、この弘前では。

でも消えました。電線は、電信柱は。どうやったと思いますか。

(児童)「木の陰に隠す」

そうだね。木の陰に隠しました。でも見えてないけど。先生がそれをしっかりと観察した写真を見せます。

でもコンクリート立てて周りを木の皮でカモフラージュ。向かい側からみると一発でわかります。上に線も見えている。でも横見ながら歩く人はいないので、歩くときは前を見ます。



前を見るんだったらね、こういう見方をするとするのは、よっぽど変わった人で、こういうのを全部見つけてやろうと思ってやる人がいますけれども、僕らはやっぱりこう見るからこれでいいですね。

しかもスギの木が元気だったら、さっきの電線隠れます。これで木が枯れちゃうと見えてしまいます。だからこの木をみんなで守りながらやっていこうねという話と、もうひとつ、お坊さんたちが協力しました。何十軒もお寺があるんですけど、お寺のお坊さんたちが決めたのは、実は弘前市の土地というのはどこまでかということ、車の走っている車道と人が

歩く歩道があります。

歩道の左側の所までが弘前市の土地です。土が見えている所が、木が立っている所がお寺の敷地なんです。

お寺の敷地の中に電信柱が立っていていいよとみんなで決めたんです。みなさん自分ちの庭の中に電信柱が立っていますか。普通自分の家の外にはある。前の道路が狭い時には、お願いして立ててもらったりしています。交通事故にならないように。

ここは本当は嫌なんだけど、仕方ないよねと入れてくれたおかげで、こんな風な、つまりお金をかけなくてもやる方法があるんです。工夫です。

これは弘前の市内なんですけど、木がありませんから隠せません。ところがここも、下に埋めないで実は電線を隠しました。どうやったと思いますか。建物を使うしかないんだよね。よくこういうときには後ろの方の敷地、裏の方に通す人もいます。

でも、裏にもお店があつてなかなか難しい、ここは。裏にも通せなかった。そうするとやっぱりこの建物のどっかに隠すしかありません。

このまちは今から何年か前に、まちづくりの景観を考えると、お店の前の歩道の上にアーケードがあつて全部とっばらいました。



その代わりに、雨が降ったときとか晴れているときに日よけとあって、電気でビューと出るテントみたいなやつを作りました。それがこの目の前にあるずっと同じようなやつで、あそこの中からテントが出るんです。そこに隠すしかないですよ。ここにあるだろうと思っても外から見えないから、残念だなあと思ったんですけど、ゆっくり見たとき見つけました。こういう風にして景観は工夫していくんです。

(7) まち歩き3つのヒント

さあ今から歩いてもらいます。歩いてもらう時に気をつけてもらうことだけお話しします。

① 写真をとると何かが見えてくる

「これ撮っても意味がない」とか「これいつも見ているやつで、見せたってみんなあんまり感動しないだろう」とか、撮りたいと思った写真は全部大事です。

撮りたいと思ったら撮ってください。今日は6台カメラがあります。2人一組で使います。2人で歩いているからといって、「あ、あれ撮りたいな」と思った時に、じゃあ代表してあなた撮ってと1枚とる必要はありません。

2枚撮っていいです。同じものを見ても、みんな景観で違うでしょ。景観というのは一人一人違うという話をしました。友達同士見ても、写真撮って見たら違う写真になります。それがおもしろい。

これは先生が何の気なしに昔東京で撮った写真なんですけど、後で現像してみたら変な写真でした。



何か不思議な所ありませんか。この家はね、狭いから、お庭がないから玄関の入口の所にいっぱい花を飾っています。という写真なので、東京って大変だなと、みんな手入れしていると思っていたんですけど、後で拡大してよく見たら、この人結構すごいことをしているなと先生は見つけてしまいました。電信柱って普通、僕らは使っちゃいけません。

しかし、あそこに飾ってやっているとなんとなく庭の一部になります。こういうことやる人もいます。

これもよくある景色なんですけど、先生これおかしいと思いました。例えば、みんな、自分で大好きな人形があるときに、自分の机の脇や窓に置いてやるときって、普通どっち向けて人形置きますか。自

分の方見せたくない。



だってこれ全部おしり見てるわけじゃん。つまり全部向こう側の外の方に見せているわけだね。これはどうぞ見てくださって飾っているわけです。自分が見たいんだったら、脇にこっち見せるように置くはずなんです。そうやって見ると、世の中にはこうやって窓に花を置いたり、あるいは人形を置いたりして、まるでお店のショーウインドみたいに飾っている人もたまにいます。

僕が前見たのは、『お母さん大好き』と絵を貼っている人がいました。たぶん小学校で母の日にやった、お母さんの顔があって花まるで大変よくできましたと書いてあるやつが、ペタッと貼ってある、いつまでも。

でも貼っているのは窓の外に向けて貼っていますから、家の中では裏です。変だよな。でも外歩いていると、僕はそれを学生さんと一緒に歩いているときに「1ヶ月後にもういっぺん歩け、このまちを。『お父さん大好き』というのがあるかもしれない。父の日にあるから。」と行って見に来たんですけど、ありませんでした。残念でした。

でもね、そういうのも景観です。

② 見えないものを写真にとる

心霊写真じゃなくて、見えないものを写真に撮るというのは、撮りたかったんだけど撮れなかったということがあるかもしれないということです。

写真というのは、パッと行って「あ、いいなあ。あ、いいなあ。」と思うけど、みんな「こんなのがあったら撮りたいと思ったのに、今日なかった」と言って、カメラをせっかく持っていても撮ってこない子が時々いるんです。

それは悪くありません。

悪くないから、代わりに言ってください。何が撮りたかったのという話です。

まちによっては撮りたいものがないと思う時があります。そういうときには、こういうのが撮りたかったのになかった、ということを書くことも勉強です。

■まち歩きのための3つのヒント

2. 見えないものを写真にとる！？

とりたいのに、とるものがない

こんなものがあつたら、とりたかつた

それも一つの大事な結果！

このまちで本当に欲しい景色なんだけど、その景色がない、ということも大事なことです。カメラを使わなくてもまち歩きができます。見たかった景色はこうだったんだけど、残念ながら僕はその写真が今日撮れなかったのが残念です、というのもまち歩きの時には大事にしてください。

③ 同じものを写真にとっても、きっと違う

今日はカメラを2人で使います。そうするとパッと行って、「じゃあここは君ね」「こっちはあなたね」という風にして、分けるのはやめましょう。パッと見て撮りたいと思ったら、2人が「じゃあ僕撮る」「私も撮る」といって撮っていいです。

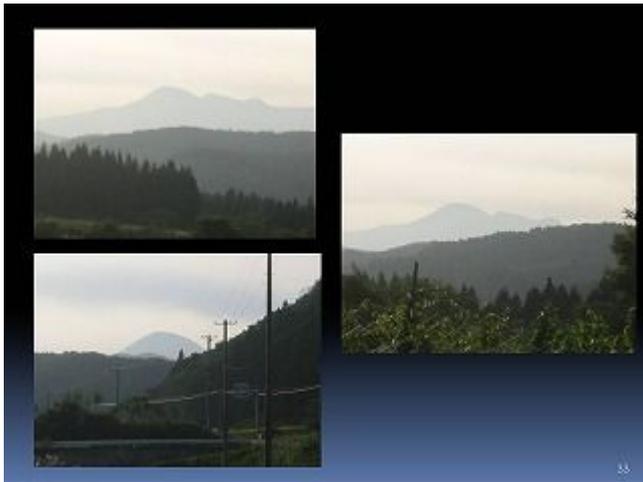
■まち歩きのための3つのヒント

3. 同じものを写真にとっても、きっと違う

何をとりたいかは、人によって違う

だから、自分の好きな写真をとろう

これは青森県の景観教室といって、あるまち歩きの写真です。同じ山を何人かで撮ってみました。



この子、何を撮りたかったのか。『うっすらと見える夕方の山が撮りたかった』。だから何かぼやっとしています。

同じ山をこの子も撮っています。これは『太陽の光を反射する露のついた葉が撮りたかった』。これよく見てもらおうと、撮りたいものが違うんです。

向こうは、山のふわっとした、これは夕方の写真です。これ、朝の写真です。だから同じ山を見ていても、時間も違うし、撮りたいものも違うんだと。

頭のピントをどこに合わせているかです。今のこの人は、山を撮りたいんじゃないじゃなくて下の葉っぱです。だから撮って見ないとわかりません。

これは何が撮りたかったの。電信柱を撮りたかったんです。山じゃありません。だから、自分で口に出さなくていい。「あ、僕撮る」といってカメラで撮ってきて、後で先生たちと写真を見るときに、「これなあに」と聞かれたときに、「これはね、電信柱が撮りたかったの」「これはね、あの山の形がおもしろいとおもったの」。それは聞いてみないとわからないので、大事にしてください。



これ、ある弘前の小学校です。噴水を撮った人が4人ぐらいいたんです。その写真を見せます。1人、

噴水を撮ったんだけど後ろのマスカットという看板が目立ってしまったので、タイトルが『噴水とマスカット』になってしまいました。



この人はちょっと引いて撮ったんで、噴水に行く橋があって、後ろにマスカットが立っているんで、タイトルは『噴水と橋』でした。

でも僕がこの時に、小学校5年生が撮った写真ですけど、この子は将来プロのカメラマンになったらいいと思ったぐらいの写真見せます。



噴水の写真です。同じ噴水ですよ。たぶんこの子はね、ここまで映っているということは、あの縁の丸い所に立って、水がもしかしたらかかるぐらいの所まで行って、なおかつマスカットを映したくないから、反対側に行って、みんなと違う方に行って撮ったんです。すごい迫力ある写真です。

だから写真というのは、本当に撮りたいものが何かというのでそこに出てきますから、みんなで同じ所に行っても違う写真が出てくることを楽しんでください。

「あそこは〇〇ちゃんが撮ったからオッケー」と。

このなかで12人が同じ写真を撮るかもしれません。

その12人が撮った写真を並べたときに、すごくおもしろいかもしれません。「うちのまちには撮るのがあんまりなくて」、そんなに数なくてもいいです。

同じものを12人が見たとき、12枚の写真が出てくるかもしれない。

その時全くみんなが同じ写真だったとしても、その場所の景観というのは、たぶんみんなにとってもすごく共通の、みんな同じ、撮りたい写真かもしれません。違えば違ったできっとおもしろい。

だからカメラを持って歩くときには好きに撮りまくってくれていいんです。楽しみにしています。今日集まっている他の大人のみなさんも、みなさんが撮ってくる写真を。

今度自分たちで整理したりして、12月にもう一回授業しますが、それをすごく楽しみにしています。何を撮ってこなきゃいけないというのはありません。みんな撮ってきたものに責任を持ってくれればいいです。「これなあに」「忘れました」はやめてほしい。「これは僕が撮ったんだ」「これは私が撮ったんだ」と言える写真を撮ってきてください。

じゃあ、教室での授業はこれぐらいにしましょう。今から休んで、外にみんなに出て行ってもらいます。

3. 地域の景観点検(10:10~11:25)

2人で1台のデジタルカメラを持って、黒岩地区内の景観点検に出かけました。



4. 写真見学会（11：35～12：00）

まち歩きの後、みんなで撮ってきた写真をスライドで見ました。



同じ場所を見てみるとおもしろいと思います。

みんなは自分のお気に入りベスト3なんかをつくっておくといいと思います。

6. おわりに（小保内校長先生）

12月もしっかり頑張りましょう。ありがとうございました。

5. 景観点検をおえて（北原先生）

今、写真を見せてもらって、思ったよりたくさん撮ってもらったのでおもしろかったです。

先生はみんなが撮ってくれたものを持って行って、同じものを5年生6年生が撮ったりした写真なんかがいっぱいあるので、パソコンで、並べて見て、映画みたいに作ってきて、12月に来たときにみんなに見せます。

何しろ枚数がすごいです。僕が今まで関係した景観教室で黒岩小学校が間違いなく写真が多いです。そのなかから、皆の写真をうまく使って、黒岩小学校の周りのおもしろいまちというのをつくってみます。

みんなは撮った写真の中から「これが私の大好きな1枚」、1枚に絞れなかったら3枚でもいいので、考えておいてください。どれも好きだと思うけれど、今度、先生が来たときに、「僕が一番好きな写真はこれなんです」という話ができるようにしておいてください。

「どうして」と聞かれたときに、「雰囲気」とかではなく、これはこういうところが好きと説明できるようにしておいてください。あと、嫌いな写真も、その日先生にお話しできるように用意しておいてください。

次回来た時は、冬の景観になっていると思います。

季節も大事で、今日は晴れているのでこういう写真でしたが、雨だったら撮りたいものも違っているかもしれないし、春だったら、雪が降ったら、また違うかもしれないので、みんなは季節が違うときに